

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	安全安心アクティビティフィールド構築事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 木祖村観光協会 長野県木曽郡木祖村大字藪原196番地
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり) (6)産業振興、雇用拡大 (イ 農業の振興と農山村づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,676,140円 (うち支援金: 1,310,000円)

事業内容

木祖村の主な観光は、夏はアウトドア、冬はスキー場といった長野県を象徴する山、川、湖面、農地をステージとした屋外型観光である。令和4年度から3年間、ウィズコロナの時代を生き抜く観光を目指し上記観光資源のコンテンツの磨き上げを行う。

[令和4年度実施事業]

- ・遊休農地を活用した無農薬・有機型体験農園開設と講習会の実施
- ・イヤホンガイドの導入し、ガイド及び木曽川上下流、交流事業に活用
- ・地域に愛される観光地を目指し、『藪原駅』開駅111周年の記念事業を行うことで中山道鳥居峠、藪原宿、藪原駅の重要性について発信した。



【中山道鳥居峠ガイド】

事業効果

- ① 観光客の増加
木曽川源流や中山道鳥居峠へのガイド依頼が対前年比193%増となり、592名を案内した。
- ② 安全対策
イヤホンガイドの活用により、ガイド中のお客様への安全対策への注意喚起がスムーズに行えるようになった。
- ③ コンテンツの磨き上げ
自然が奏でるハーモニー(川のせせらぎ、鳥の声、風の音など)を聴きながらガイドの説明を受ける演出効果は大きい。
- ④ 地域密着型観光地づくり
遊休農地の有効活用(体験農園)で農山村の景観が復活並びに維持され、人が入ることで有害鳥獣対策にも大きな効果があった。『藪原駅』開駅111周年記念事業も地元の藪原地域自治協議会と共催出来たことは大きな成果である。

【目標・ねらい】

- ① 観光客の増加
- ② 安全対策
- ③ コンテンツの磨き上げ
- ④ 地域密着型観光地づくり

※自己評価【A】

【理由】

- ・農山村風景の復活
- ・イヤホンガイドの満足度向上
- ・地域一体型の取り組み
- ・体験メニューが増えた

今後の取り組み

令和5年度では更に一反歩の周辺遊休農地を活用し緑肥栽培を行う。令和5年度では4月当初より中山道鳥居峠、水木沢天然林ガイドをはじめとし、多くの観光客の皆さんにイヤホンガイドで案内を行い、長引くウィズコロナへの対応を図ることで今まで以上に安全安心の観光地を目指す。

約100年前に木祖村の産業革命(やぶはら高原スキー場の開設、鳥居峠観光)のきっかけとなった藪原駅の利用促進を図り、公共交通を活用する観光地を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある